



人間総合科学学術院 人間総合科学研究群

スポーツウエルネス学 学位プログラム

スポーツウエルネスマネジメント分野

【 協働大学院方式 】

入学案内

2027



筑波大学
University of Tsukuba

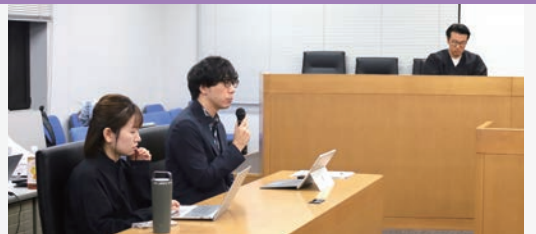
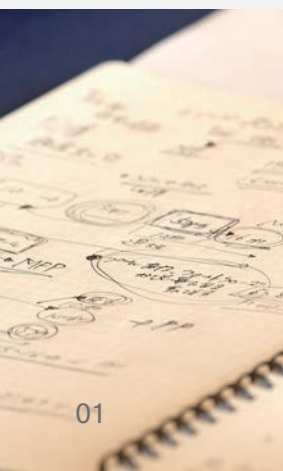
スポーツ×ウェルネス×まちづくりの分野で、 新たな社会的価値を創出する

スポーツウェルネスマネジメントは、
スポーツ・ウェルネス・まちづくりの知を掛け合わせ、
社会課題の解決につながる新たな価値を構想し、
社会に実装するための実践的なマネジメントを学ぶ分野です。



高齢化や健康格差、地域コミュニティの希薄化など、現代社会の課題はますます複雑化しています。こうした課題に対し、スポーツとウェルネスが持つ可能性を、まちづくり、政策、産業と結びつけ、社会に実装していくことが求められています。

スポーツウェルネスマネジメントとは、スポーツ・健康・地域に関わる社会課題を統合的に捉え、理論と実践を行き来しながら解決へと導く人材を育成する学びです。筑波大学が培ってきたスポーツ科学・健康科学の研究を基盤に、産学協働による実践的な学びを通して、社会人が自身の経験を整理し、新たな社会的価値の創出につなげることを目指します。



SPORT × WELLNESS × COMMUNITY



社会課題の解決へ

スポーツ・ウエルネス・まちづくりの相互作用から、社会課題を解く価値を生み出し、ビジネスと学術につなげ、持続可能なイノベーションを創り出す。

Message



久野 譜也 教授

スポーツウエルネス
マネジメント分野長

スポーツウエルネスの力で、 健幸な社会と都市の未来を拓く

スポーツとウエルネスは、個人の健康を支えるだけではなく、地域の活力や持続可能なまちづくりを生み出す重要な力です。本分野では、トップスポーツのマネジメントから人々の健康、地域活性、健幸都市づくりまでを横断的に学び、実社会で課題解決を担える人材の育成を目指しています。産学連携による協働大学院方式のもと、日本を代表する実務家・研究者から直接学べることは、本学本分野ならではの特長です。社会課題に真正面から向き合い、未来を切り拓く意欲ある皆さんの挑戦を期待しています。

理念と組織

— スポーツ・ウェルネス都市創生コンソーシアム —

スポーツウェルネスマネジメントの学びは、
筑波大学と多様な組織が連携する
コンソーシアムによって支えられています。



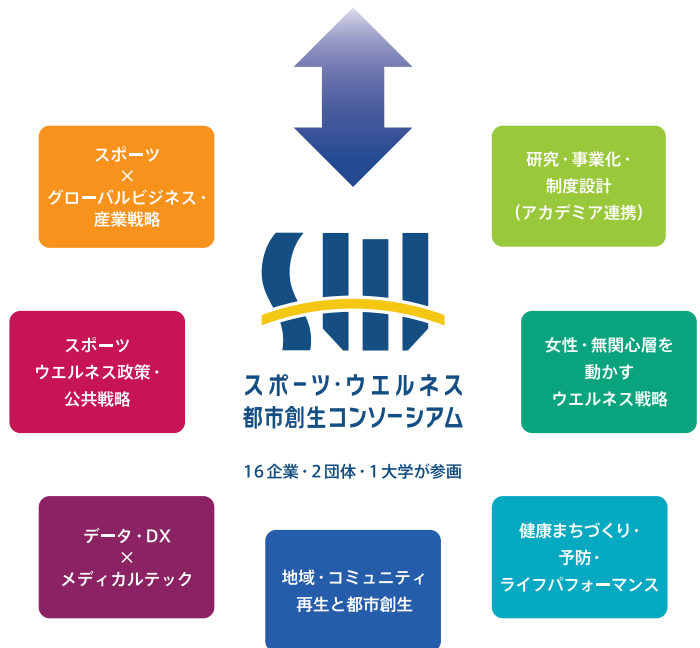
社会課題に向き合うための、 産学協働のプラットフォーム

スポーツ・ウェルネス都市創生コンソーシアムは、スポーツと健康の力を社会課題の解決につなげることを目的に、筑波大学と多様な組織が協働して設立された産学連携のプラットフォームです。研究知と現場の知見を結びつけ、社会に実装可能な価値創出を目指しています。



筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群
スポーツウェルネス学学位プログラム
スポーツウェルネスマネジメント分野
(協働大学院方式)

人材・教育課程、入試、カリキュラム編成、研究指導・
講義、OJT・実習、学位論文審査等を管理



参画機関

アシックス / カナミックネットワーク / カーブスホールディングス / 大和ハウス工業 / つくばウェルネスリサーチ /
電通グループ / 東急 / 日建設計総合研究所 / 三井不動産 / 武蔵野銀行 / ACA Football Partners / BACeLL
法律会計事務所 / EYストラテジー・アンド・コンサルティング / R-body / SCOグループ / Waisports ジャパン
/ 筑波大学スマートウェルネスシティ政策開発研究センター / 日本スポーツ政策推進機構 / 筑波大学

協働大学院方式による

リスキリング・リカレント教育

本プログラムでは、社会人が自身の実務経験を起点に、大学院で理論的に学び直す「協働大学院方式」の教育を行っています。

協働大学院方式とは

協働大学院方式とは、スポーツ・ウェルネス都市創生コンソーシアムを基盤に、大学と企業・団体が連携し、社会の現場で生じている課題を教育や研究のテーマとして取り入れる、筑波大学独自の大学院教育システムです。学生は実務と学修を行き来しながら、自身の実務経験を研究の視点で捉え直し、課題の本質に迫っていきます。

リスキリング・リカレントとしての価値

働きながら学ぶ社会人にとって、自身の経験を理論と結びつけて整理することは、次の実践やキャリアにつながる重要なプロセスです。本プログラムでは、研究大学として蓄積してきた知を活用し、実務経験を新たな価値創出へと発展させていきます。



専任教員



久野 謙也 教授

スポーツウエルネスマネジメント分野長

AIによるビッグデータ PHRの開発
健康まちづくり政策 健康政策

- ・スポーツ庁スポーツ審議会委員
- ・スポーツ審議会健康スポーツ部会会長
- ・内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」プログラムディレクター
- ・筑波大学発VB株式会社つばウエルネシリサーチ代表取締役社長
- ・厚労省、経産省、国交省の多数の委員を兼務 ほか



田邊 解 准教授

サルコペニア ヘルスプロモーション
健康科学 疾病予防 運動生理学

- ・日本介護予防・健康づくり学会副理事長 / 編集委員会委員長
- ・筑波大学DESIGN THE FUTURE機構広報戦略・推進タスクフォース委員会委員長
- ・静岡市大谷・小鹿地区まちづくり検討会委員
- ・内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「包摂的コミュニティプラットフォームの構築：コミュニティと共進化するデジタルツインによる次世代型包摂的まちづくり手法と包摂性評価指標の開発」分担研究開発責任者
- ・その他、厚生労働省、スポーツ庁の研究事業や複数の企業との共同研究を実施 ほか



澤江 幸則 准教授

アダプテッド インクルーシブ体育 ダイバーシティ
地域連携 運動発達支援

- ・(一社) ULURA 代表理事
- ・スポーツ庁審議会障害者スポーツ推進WGメンバー
- ・障害者指導対応ツール検討委員会メンバー(スポーツ庁事業)
- ・アダプテッド定着プロジェクトメンバー(スポーツ庁事業)
- ・障害の有無にかかわらず共に学ぶ体育授の充実事業助言者(スポーツ庁事業)
- ・障害のある児童生徒の体育活動等実態調査実行委員会委員(スポーツ庁事業) ほか



清野 隼 助教

ハイパフォーマンスマネジメント コーチング
スポーツ栄養 スポーツ科学 eスポーツと教育

- ・日本オリンピック委員会専任ハイパフォーマンスディレクター
- ・日本ボクスレー・リュージュ・スケルトン連盟 医科学部長
- ・東北楽天ゴールデンイーグルス スポーツ栄養アドバイザー
- ・日本氷上スポーツ学会 理事
- ・日本スポーツ栄養学会 副会長
- ・日本体育・スポーツ・健康学会 政策検討・諮問委員会 委員 / 体育・スポーツ政策専門領域研究促進委員会 委員 ほか

カリキュラム

— 理論と実践を行き来しながら、課題解決力を磨く —

本プログラムでは、研究大学としての理論的学修と、社会の現場に根ざした実践を組み合わせ、課題の本質に迫る力を段階的に養います。

本課程では、博士前期課程に求められる研究能力の修得を前提に、理論的学修と実践的な課題探究を段階的に深めていきます。



理論基盤を築く (基礎・共通科目)

スポーツ科学、健康科学、社会科学の知を横断的に学び、実務経験を理論的に捉え直すための視点を身につけます。

例

- ・健幸都市づくり論
- ・スポーツウエルネス医科学
- ・スポーツビジネス開発論 など

課題を深める (演習・プロジェクト)

自身の実務や社会課題をテーマに、演習やプロジェクトを通して分析・検討を重ね、課題の構造や解決の方向性を明らかにしていきます。

例

- ・研究デザイン実習
- ・課題解決型実習

研究としてまとめる (修士論文・特定課題・研究報告書)

理論と実践を往還しながら問いを深め、社会に還元可能な知として研究にまとめます。

例

- ・研究デザイン方法論Ⅰ～Ⅴ
- ・口述試験
- ・成果発表会

※カリキュラムの詳細はWebサイトをご覧ください。



社会人学生の

声

実務経験を研究の視点で捉え直しながら学ぶ、社会人学生のリアルな大学院生活を紹介します。

※所属は在学当時のものです。

いそぐち たかふみ
磯口 貴史



研究テーマ

埼玉県企業におけるウエルビーイング経営の可能性について

所属先

武蔵野銀行
市場国際部 市場運用グループ
調査役

08:00 出勤

16:30 退社 ※職場の理解もあり、現在は8:00~16:30の勤務体系

17:45 グループワーク開始
(授業前にグループで集まり発表準備等)

18:20 授業開始

21:00 授業終了

22:00 帰宅後、課題整理・文献整理

実務を起点とした研究を通して、理論と実践を結び、地域や社会に還元する視点を修得しました。

修了後のキャリアパス

— 研究と実践をつなぐ、その先へ —

本プログラムで培った研究力と実践力は、
多様な分野での活躍や、
次の研究・キャリアへとつながります。



培った研究力と実践力を生かし、多様な分野で社会と向き合う
パイオニアとしての役割を担います。

企業・産業分野



スポーツ・ヘルスケア関連産業で、事業企画や
プロジェクト推進を担う人材として活躍します。

自治体・公共分野



スポーツや健康を軸とした施策に携わり、
地域のウェルビーイング向上に貢献します。

スポーツ・健康関連団体



スポーツ・健康関連団体において、現場と社会
をつなぐ視点で事業運営に関わります。

研究・教育・次の学びへ



修士研究で培った研究力を生かし、博士後期課
程への進学や研究・教育分野へと進みます。

いまむら ふうか
今村 風花



研究テーマ

若年女性のやせと
母親との関連について (仮)

所属先

フジ産業株式会社
コントラクトフードサービス事業本部
東京支店 業務グループ
管理栄養士 / 公認スポーツ栄養士

08:30 出勤 (出社 or 在宅)

17:30 退勤

18:20 授業開始 (基本対面)

※授業課題がある場合、移動時間で作成をすることも。

21:00 授業終了

22:30 帰宅・夕食 (授業前に摂ることもあり)

※帰宅後に課題・レポート作成・文献整理などに取り組む

23:00

多様な実務家との学び合いを通して、栄養の専門性に
マネジメントを重ね、次世代を育てる基盤を築きました。



【1期生 (12名所属)】※順不同

アシックススポーツ工学研究所、カープスジャパン事業開
発本部、文部科学省国立教育政策研究所、カナミックネッ
トワーク、三井住友銀行、フジ産業コントラクトフードサー
ビス事業部、野村證券IBプライベート・ビジネス推進部、
武蔵野銀行市場国際部、つくばウエルネスリサーチ SWC
推進部、BACeLL法律会計事務所、桐生大学大学改革推
進部、日本社会福祉マネジメント学会事務局

修了要件

2年以上在学し、スポーツウエルネス学学位プログラムで定める修士の要件として必要な授業科目の履修により30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、特定課題研究報告書あるいは修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

● 授業時間

	火～金曜日	土曜日
第2限		10:20～11:35
第3限		11:45～13:00
第4限		13:45～15:00
第5限		15:10～16:25
第6限		16:35～17:50
第7限	18:20～19:35	18:20～19:35
第8限	19:45～21:00	

● 課程修了までの主なスケジュール

1年次	4月	入学式・オリエンテーション/春学期授業開始
	8～9月	休み(夏)
	10月	秋学期授業開始/学位論文中間発表会(運営・参加)
	2月	学位論文発表会(運営・参加)
	2～3月	休み(春)
2年次	4月	オリエンテーション/春学期授業開始
	5月	「研究テーマ届」の提出
	8～9月	休み(夏)
	10月	秋学期授業開始/学位論文中間発表会(発表)
	12月	「正式題目届」の提出
	1月	学位論文提出/口述試験
	2月	学位論文発表会(発表)
	2～3月	休み(春)
	3月末	学位記授与式・修了

入試情報

● 入試関連情報 前期課程

出願資格	・入学までの在職経験が概ね1年以上ある者 ・日本国内の4年制大学を卒業した者又は2027年3月までに卒業見込みの者 等
出願期間	【推薦①】2026年6月 9日(火)～2026年6月20日(土) 【推薦②】2026年6月30日(火)～2026年7月11日(土)
試験日	【推薦①】2026年7月11日(土) 【推薦②】2026年9月 5日(土)
合格発表	【推薦①】2026年 7月31日(金) 【推薦②】2026年10月 1日(木)
費用等	入学料 282,000円 授業料年額 535,800円 (2026年度参考)

※詳細は、募集要項をご確認ください。

